

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

【か】よく考え 【な】なかよく 【が】がんばる 【わ】わたしたちかになっ子
 【か】自らすすんで問題を見つけ、よく考えて判断して行動し、豊かに表現できる子どもを育てます。(知)
 【な】自分や他者のよさを認め合い、個性を發揮しながら他者と豊かにかかわり合う子どもを育てます。(徳)
 【が】自分の心と体に関心をもち、すすんで健康保持に努めるとともに、体力の向上を目指す子どもを育てます。(体)
 【わ】自分が住む神奈川の「まち」について理解を深め、「まち」とともに育ち「まち」に貢献する子どもを育てます。(公)
 多様な文化やひとの存在を理解し、視野を広げて共によりよく生きようとする子どもを育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自己決定力
かかわり合う力
健やかな心とからだ

具体化した資質・能力

創造する・つなげる・試行錯誤する・見通す
伝え合う・折り合いをつける・相手を思いやる
粘り強さ・心と体のたくましさ
やってみる・自他のよさを認める・視野を広げる

中期取組目標

○自らすすんで問題を見つけ、よく考えて行動する子どもを育てます。
 ・1年目は、子どもの自己決定を保障する取組を継続的に行うことで、主体的に学ぶ姿勢を身に付けられるようにします。
 ・2年目は、子ども同士がかかわる場を設定し、対話的で協働的な学びの実現を目指します。
 ・3年目は、伝え合うことで自分の考えを深められたり広げられたりすることを実感できるようにします。
 ○他者と豊かにかかわり合う子どもを育てます。
 ・3年間を通して、幼・保・小・中学校、家庭と連携し、人とかわる活動を重視します。それぞれの子どもの違いやよさを認め合うことを通して子どもの自己肯定感を高めていきます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きて働く知	①関わり合い、伝え合うことで自分の考えを深められたり広げられたりすることを実感できるような学習の場を設定していく。 ②学年やブロックでの評価規準の確認と見直しを年間を通して積み重ねていけるようにし、授業改善に努める。 ③授業研究をより深められるように、目指す子どもの資質・能力を明確にしながら、子どもが問題解決に進んで取り組める授業づくりを目指す。
担当	教育課程・研究推進

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる子どもの実態
 学力は市の平均を下回っているが、昨年度から学力を伸ばした率は、ほぼ市の平均を上回り、大きく伸びたことがうかがえる。

(2) これまでの学校の取組状況
 ・制限がなくなり、学習の場だけでなく、人との関わりや交流を充実させた活動を取り入れることができた。
 ・授業研究を行うことで、算数科を軸に子ども自ら問題解決を図ったり、見方・考え方を働かせたりする授業づくりを目指すことができた。
 ・教師自身が、学習の系統性を意識して、単元づくりに取り組むことができるようになってきた。

今年度の目標

見方・考え方を働かせて協働的に学ぶ子の育成

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 重点研究で算数科を軸に「数学的な見方・考え方を働かせて協働的に学ぶ子」を目指して授業研を行い、本単元・本時で子ども達に働かせほしい見方が何かについて研究を深めていく。
- 関わり合い、伝え合うよさを実感できるような学習の場を設定していく。
- 地域と連携し、人と関わる活動を重視した授業づくりを目指す。
- 学習状況調査の結果をもとに、各学年の状況に応じた学習計画を立てる。
- 教科や単元ごとに目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。
- 友達と対話したり協働的に学び合えるような場をもてるような学習計画を立てる。
- 学年で評価規準や評価計画の見直しをし、授業改善に生かす。
- 朝の時間を有効活用し、基礎基本の定着を図る。
- 家庭学習を基礎基本の定着を図れるものと、子どもが選択できるような内容とに取り組み、学力向上を図るとともに、主体的に学習に取り組める姿勢を育成する。

下半期

- 重点研究で算数科を軸に「数学的な見方・考え方を働かせて協働的に学ぶ子」を目指して授業研を行い、本単元・本時で子ども達に働かせほしい見方が何かについて引き続き研究を深めていく。
- 研究で学んだことを算数科だけでなく、他教科における日々の授業にも汎用できるようにする。
- 関わり合い、伝え合う姿が自然と見られるような環境づくりをする。
- 各学年の前期の学習状況を分析し、それぞれの力に応じた学習計画を立てる。
- 教科や単元ごとに目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。
- 友達と対話したり協働的に学び合えるような場をもてるような学習計画を立てる。
- 学年で評価規準をもとに学習評価の計画を立て、授業改善に生かす。
- 朝の時間や家庭学習を有効活用し、基礎基本の定着を図る。
- 家庭学習を子どもが選択できるような内容を増やしていき、主体的に学習に取り組める姿勢や自己決定力を育成する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①年間を通してYPを活用していけるよう、計画を立てて研修等を行っていく。YPを通して友達との違いやよさを認めることができる風土を醸成していく。 ②ペア学年や地域の方との関わりを充実させる。関わり合いが広がることで、自分から挨拶できるようにしていく。
担当	特別支援・児童指導・人権

豊かな心に関わる本校の状況

○人権掲示板を設置し、学校教育目標に基づいた学年・学級目標の中で、人権的意識に関わる部分がかかるように掲示した。また、人権週間には、子ども会議での取組をもとに、各学級でいじめ防止ポスターを作成した。朝会(人権)で、作成したポスターを紹介することで全校でいじめ防止について考えることができた。
 ○YPアセスメントを活用し、各学級でYPプログラムができるよう、呼びかけ・研修を行った。
 ○校内での挨拶は増えてきているが、朝の挨拶や地域の方への挨拶がなかなかできないことが課題である。
 ○他学年との交流や、地域の方と関わった学習も徐々に増えてきている。ペア学年での活動は、学年により活動回数にばらつきがあり、愛着や相手意識をもって活動できた学年もあったが、さらに継続的に活動できるようにしていきたい。地域とのかかわりに関しても、学年や学級によって関わりや回数にばらつきがある。自分たちが地域の人々に支えられていることに気が付けるようにしたい。

今年度の目標

ペア学年や地域の方と関わり合うよさに気付き、関わり合いが広がる中で相手との違いやよさを認めていこうとする子を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 学校教育目標に基づき、人権的視点をもった学年目標を立て、校内で掲示する。
- 折を見て目標の振り返りを行い、よい姿を価値づける。
- ペア学年活動は年間計画を立て、継続して関わりをもてるようにする。
- あいさつをするの意図や大切さを意識し、自分からあいさつができるように指導する。
- 行事や生活科・総合的な学習、各教科の学習で地域とのつながりを密にする。
- YPプログラムに計画的に取り組みするよう、年間計画を立て、見直しをもてるようにする。
- メンター研修でYPプログラムを取り上げる。
- いじめの未然防止につながるYPプログラムを、全学級で行い、子どもたちが課題意識をもてるようにする。

下半期

- 学年目標の振り返りや見直しを行う。
- 折を見て振り返りを行い、よい姿を価値づける。
- 年間計画に沿って、継続してペア学年活動を行う。下学年からも集会の企画などを行えるとよい。
- あいさつが自分からできるよう、継続的に指導する。
- 行事や生活科・総合的な学習、各教科の学習で地域とのつながりを密にする。
- 人権週間の取組を通して、人権について考える機会をもつ。
- いじめの未然防止について、横浜子ども会議で話し合われたことを、校内に広げていく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①年間を通して「レッツ体力アップ」に取り組み、体力づくりの習慣づけをめざす。短縄や持久走、ストレッチに取り組み、個人の持久力・敏捷性の向上をめざすと同時に、運動の楽しさや達成感を得られるようにする。 ②「自ら考え行動できる学校」をめざして、保健委員会を中心に全校で健康、安全についての意識を高める取組の実現を図る。
担当	体育部・学校保健

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童の実態
 ○令和6年度の新体力テストの結果では、「スポーツをすることが好き」と答えている児童が横浜市平均より高く、運動することが楽しいと感じている児童が多い傾向があることが示された。
 ○同テスト結果より、測定種目のほとんどで横浜市平均を下回っている実態があり、特に反復横跳び、20mシャトルラン、50m走は他の項目と比較しても低いことがわかった。

(2) これまでの本校での取り組み
 ○年間を通して「レッツ体力アップ」(短縄・持久走)に取り組んだ。個人でめあてを設定し、それに向かって活動を行う姿が見られた。また、記録を付けることで自分の伸びに気付く姿や休み時間に短縄に取り組みする姿が見られた。このことから、「レッツ体力アップ」を継続的に行うことで、運動することの大切さに気付き、より運動に親しむ姿が期待できる。「レッツ体力アップ」によって運動習慣を身に付け、生涯スポーツとして児童自らが日常生活に運動を取り入れられるようにしたい。

今年度の目標

○「レッツ体力アップ」を通して持久力・敏捷性の向上をめざし、運動に親しむ態度を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 短縄(2分間跳び続ける)とストレッチの実践。
- 短縄ではいろいろな跳び方を示し、いろいろな跳び方に挑戦できるようにする。
- 個人で目標を立てて取り組みを行い、記録を付けていくことで、記録の伸びを感じられるようにする。
- 学校保健委員会では、校内の課題を発見し、課題解決に向けてどのように取り組んでいくのかを各クラスで目標を立てて取り組む。
- 夏休みには、「歯磨きカレンダー」と「早寝、早起き、朝ご飯」カードを作成し、生活習慣を確立できるようにする。

下半期

- 持久走(3分、5分)とストレッチを実践する。
- 2つのコース(ぐんぐんコース・こつこつコース)を作り、自分に合うコースを選択できるようにする。
- 友達と励まし合いながら一緒に運動を楽しんだり、走り切ったときの爽快感を共有したりして、運動に親しむ態度を育成していく。